

Hartke BASS ATTACK 2

BASS PREAMP/DIRECT BOX WITH OVERDRIVE

Version 1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
2. 読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。
3. 本体を雨中や湿度の高い場所、または水の近くで使用しないでください。
4. 本体を水または液体の中にいれないでください。
5. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。メンテナンスは乾いた布で拭いてください。
6. 本体の通気口をふさがないように、マニュアルの指示に従って設置してください。
7. 熱源（ラジエーター、ストーブ、アンプ）などの近くに設置しないでください。
8. 安全のため、アース付きプラグを使用してください。プラグのブレードは一方が幅広になっています。アース付きプラグには、2つのブレードとアースピン（グラウンド）が付いています。幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。プラグが上手く挿さらない場合、技術者にコンセントの差し込み口を確認して貰う事をお勧めします。
9. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
10. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
11. 製品受領時に外部に損傷（電源ケーブル等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージが有った場合、ただちに販売店に連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れがあります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合が有ります。
12. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
13. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
14. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
15. 電源コードのプラグは抜き差し可能で、差し込むだけで使用できます。
16. 本製品を廃棄するときは、地方自治体のルールに従ってください。
17. 設置について疑問が生じたときは、販売店に相談してください。

メンテナンスと修理

最新の電子技術と素材を使用した製品のため、それに応じたメンテナンスと修理を行う必要があります。機材へのダメージ、使用者へのケガを防ぐためにメンテナンス/修理は本製品の代理店にて行ってください。

注意:本製品を使用すると高周波を発信する場合があります、設置場所および使用方法によっては、無線送信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ラジオやテレビの受信に干渉する場合は、環境に応じて使用するかどうかの判断、または下記の改善策をご検討ください。

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機の距離を離す
- 受信機が接続されているものとは別の回路のコンセントに機器を接続する
- 販売店、またはテレビ・ラジオの技術者に相談する

目次

安全上の重要事項	2
メンテナンスと修理	3
製品概要	5
詳細仕様	5
各部の名称	6
セットアップ	8
Hartke シェイプ・コントロール	9
接続	10

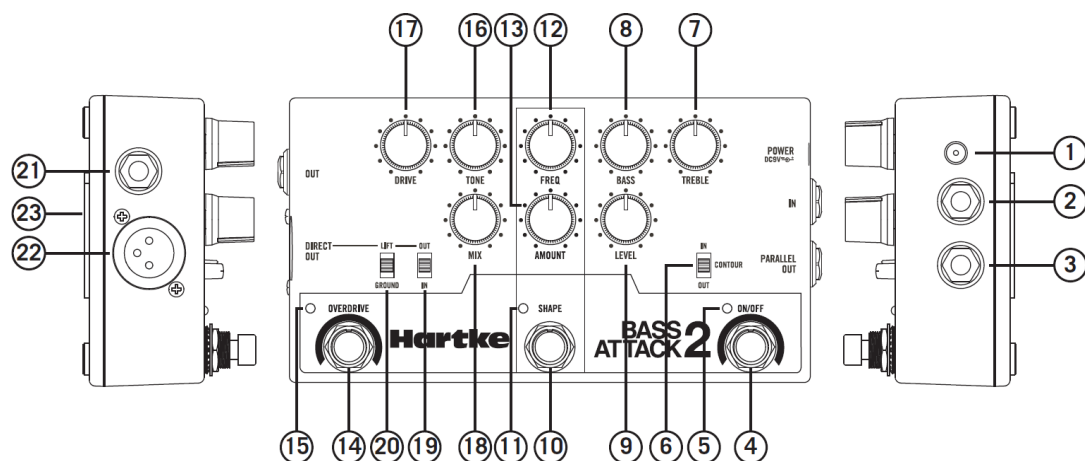
製品概要

Bass Attack2 はプロ仕様の機能を搭載したプリアンプ・ダイレクトボックスです。優れたトーン・シェイピング機能を持ち、レコーダーやミキサーに信号を送るスーパー・クリーン・サウンドを出音します。本製品はサウンドを形作る 3 つのステージ（EQ セクション、Hartke 社の誇るシェーピング回路、オーバードライブ）により、温かみのあるサウンドから分厚いディストーションまで作ることができます。また、入力（フォン端子）、ダイレクトアウト（バランス XLR）、パラレル出力（フォン端子）などが用意され、アンプやミキサー、レコーダーなどにフレキシブルに接続でき、スタジオでもツアーでも、とても使いやすい機材です。耐久性のある Zinc ダイキャスト・エンクロージャーにより長期間使用しても常に安定した性能を発揮し、レコーディングでもライブでも求めるサウンドが得られます。

詳細仕様

入力インピーダンス	1M Ω	
出力インピーダンス	アンプ出力: 1k Ω アンバランス ダイレクト: 400 Ω バランス パラレル: 入力インピーダンスと同じ	
レベル	+6dB $\sim$ -24dB	
トーン・コントロール	Bass	+/-15dB、30Hz
	Treble	+/-18dB、20kHz
	Contour	固定ミッド・スcoop EQ
シェイプ・コントロール	Frequency: 200Hz $\sim$ 800Hz Amount: +15/-25dB	
ダイレクトアウト IN/OUT	IN: パラレル入力端子、OUT: パラレル出力端子	
LIFT/GROUND	ダイレクトアウト信号グランドをシャーシから切り離し	
電源アダプター	DC9V	
電池	単 3 電池 2 個	

各部の名称



1. DC 電源端子
DC 電源アダプター（9V DC）を接続します。
2. ベース入力端子
パッシブ/アクティブベース用入力フォン端子。
※この端子にケーブルを接続すると本製品の電源が入り、抜くと切れます。
3. パラレル出力
入力端子からのパススルー出力。ステージアンプやモニターに接続します。
4. ON/OFF
エフェクターの On/Off を行うフットスイッチです。
5. ON/OFF LED
フットスイッチを踏むと点灯します。
6. CONTOUR IN/OUT
プリセット EQ（固定ミッド・スクープ EQ）を On/Off します。
7. TREBLE
高域を調整します。18dB ブースト、20kHz カット。12 時位置では高域がフラットに出音されます。
8. BASS
低域を調整します。18dB ブースト、30Hz カット。12 時位置では低域がフラットに出音されます。
9. LEVEL
出力端子②とダイレクトアウト②のボリュームを調整します。
10. SHAPE
フットスイッチによりシェイプ回路を ON します。

11. **SHAPE LED**

シェイプ回路が働いたとき点灯します。

12. **FREQ**

Hartke シェイプ回路を使用し、幅広い周波数領域をスイープすることによってプリセット EQ カーブを調整します。**SHAPE** ツマミを時計回りに回すと高周波数領域にノッチフィルターが掛かります。反時計回りに回すと低周波数領域に掛かります。時計回りいっぱい回すと 800Hz 領域、反時計回りいっぱい回すと 200Hz 領域にフィルターが掛かります。

13. **AMOUNT**

ブーストの深さ調整や **SHAPE** フィルターのカットに使用します。

14. **OVERDRIVE**

オーバードライブを ON します。

15. **LED**

オーバードライブが ON の際に点灯します。

16. **TONE**

エフェクトの高周波数特性を調整します。時計回りに回すとサウンドの輝きが増し、逆に反時計回りに回すと高域が抑えられます。

17. **DRIVE**

チューブ・エミュレーション・オーバードライブの掛かり方を調整します。時計回りに回すとオーバードライブの掛かり方が増加します。

18. **MIX**

ドライとオーバードライブのミックスを調整します。

19. **IN/OUT**

IN 側に切り替えるとダイレクトアウト信号がベース入力端子に並列に接続され、OUT 側に切り替えると OUT 端子に並列に接続されます。

20. **LIFT/GROUND**

LIFT 側に切り替えると XLR 端子出力のハムノイズを取り除くことができる場合があります。

21. **OUT**

ラインレベル出力（エフェクトバイパス）

22. **ダイレクトアウト**

XLR バランス出力端子。マイクレベル出力信号。エフェクト信号が OUT 端子とパラレル、バイパス信号がベース入力端子とパラレルに出力されます。

23. **電池カバー**

単 3 電池 2 本を極性に注意して入れてください。

セットアップ

電源

本製品には単 3 電池 2 本（別売）、DC 電源アダプター（別売）、48V ファントム電源（付属していません）のいずれかが使用できます。状況に応じて選択してください。ツアーやライブハウスではグランドループによりハムノイズが起こることがあります。この際は、他の機材からのグランドループを避けるために電源として電池での電源供給をご検討ください。

電池の取付

バッテリーカバーを外し、極性に注意して取り付けます。

DC 電源アダプター

9VDC 電源アダプター（別売）を本製品の DC 電源端子に接続し、もう一方をコンセントに接続します。

LIFT/GROUND

LIFT 側に切り替えてグランドをシャーシから切り離すことによって XLR 端子出力のハムノイズを取り除くことができる場合があります。

EQ について

EQ がどのように働くかを理解するため、自然界にある「音」について知ることは重要です。「音」というのは幅広い周波数ピッチが様々な形で混合されたものです。このブレンドにより個性のあるトーンカラーが作られるのです。

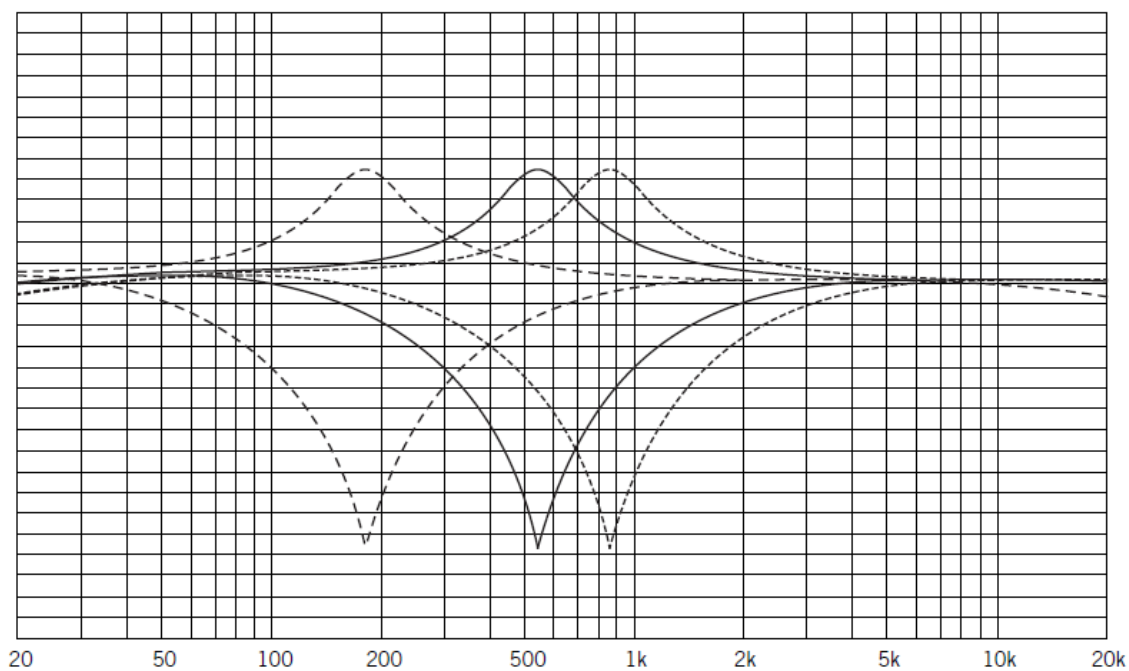
EQ コントロールによって特定の周波数領域をブーストしたりカットしたりできます。一般のステレオについている Bass、Treble コントロールと同じような働きをし、より精密にコントロールすることができます。本製品の Bass と Treble コントロールはシェルビング EQ であり、中心位置から時計回りに回すと低域/高域をブースト、反時計回りに回すとカットします。

様々なケースにおいて、EQ をうまく使うためには、カットする周波数領域とブーストする周波数領域について考える必要があります。注意が必要なのは、ある周波数領域をブーストすると、信号全体をブーストしてしまう点です。特に極端な低域における EQ ブーストは歪みやフィードバックを引き起こすことがあります。

Hartke シェイプ・コントロール

本製品を使用してベースの周波数領域をスイープ、EQ カーブをカスタマイズすることによりベースサウンドの幅を広げることができます。シェイプ EQ のノッチフィルターは「AMOUNT」ノブを調整して特定の周波数エリアをブースト、またはカットします。ブーストして中域を強調し、刺激的なディストーションを作ることができます。「AMOUNT」ノブを下げて特定の周波数領域をカットし、エフェクトをカスタマイズすることによって、ベースサウンドを際立たせます。

「FREQ」コントロールを時計回りに回し、高域にノッチフィルターを加えます。時計回りいっぱいに回すと 800Hz 周波数領域にフィルターを加えます。反時計回りいっぱいに回すと 200Hz 周波数領域にフィルターを加えます。



接続

本製品を使用するために様々な接続方法があります。下図の例では、ベースを本製品に接続し、パラレル OUT (バイパス)、または OUT (エフェクト) からアンプに接続、さらにダイレクトアウト信号をライブ会場やスタジオで使用するミキサーに接続しています。

